



JAMCA ニュース

No.75

2012 年 10 月 1 日

発行
協会事務局

編集事務局

全国自動車大学校・整備専門学校協会
 〒160-0015 東京都新宿区大京町 31
 ヴィップ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有 3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>

整備学校の将来はどうか

東京工科自動車大学校 学園長
 全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

山本 眞

自動車整備学校はこれからどうなるだろう。専門学校はこんなに多くの学生を擁して、既に 40 年近く経つのに、社会の人はどんな学校がよく知らない。街の人も、高校生の保護者も、先生も、新聞記者すら知らない。

2009 年から始まった中教審特別部会作業部会では、「高校でほとんど勉強してこなかった人が専門学校に入って一生懸命勉強するようになった」と認められたし、高等教育段階の職業教育は世界的な流れになったとして、学術教育と職業教育との複線型の高等教育制度が提唱されたが、高校は未だに大学進学率を競っていて、高校卒の進路に変化はない。

一方で、若者の失業が増加し、また非正規雇用が増え、その上新卒時に就職に失敗すると、十分な経験や実績がないから中途入社は難しい。将来職業能力の不十分な高齢者となり、社会福祉が行き詰まると警鐘が鳴らされている。(日経 2012 年 7 月 16 ~ 20 日)

6 月の第 50 回 JAMCA 年次総会における国土交通省の講演は自動車を取り巻く環境の変化と人材育成についての話であった。内容は新技術に関する課題から、環境問題やエネルギー・資源問題も加わり、高齢化社会に相応しい安全対策まで含む話となり、技術的にとても大きな変革を



迫られた印象だった。整備学校の現状は未だ何も変革に準備していないという恐怖を感じた。

高等教育機関はカリキュラムを自作する。大学の学術教育は学術の頂点にいる大学の研究者の考え方や態度を規範として、大学自身が組み立ててきたのだ。職業教育は各産業界における考え方や職業人の態度を規範とすべきだろう。

学生が学校から社会に巣立つに当たり、ミスマッチを起こすのは学校の職業教育が未熟だからと反省せざるを得ない。これを防ぐには産業界と学校が密に連携して、産業界の規範を共有し、職業教育のカリキュラムを開発する必要がある。

特に自動車整備学校は前述のような変革を前にして、従来のような資格取得予備校を脱し、資格の要求する本来の人材目標について、メーカー技術者や整備工場経営者と協議して、整備士を志す若者に技術の基本や仕事に取り組む態度をしっかりと教えるカリキュラムを開発しなければならない。特にこの「基本」や「態度」を若い時に身に付けることが大切だ。また現役整備技術者のリカレント教育も必要になろう。

この産学連携が自動車整備学校にとって今最も大切な課題だろう。しかし、産学連携は一学校では難しい。また学校は同種の学校が一斉に改革しないとなかなか社会の評価は上がらないから、JAMCA の一大事業にすべきではないか。自動車整備学校はこれからも継続して自動車業界に有為な人材を供給していくことを使命としたい。

■ CONTENTS ■

- 2 面 被災地支援 被災地へ車を届けよう
- 3 面 我が校自慢
- 4 面・5 面 若者の早期離職についての現況と対策
- 6 面 協会トピックス
- 7 面 活躍!! 卒業生・地区通信
- 8 面 私の教材活用・お知らせ・編集後記